

## 【議事要旨】

# 第1回 野鳥公園整備に関する検討委員会

1 日 時 平成25年10月3日（木） 15：00～16：30

2 場 所 福岡市役所15階 第4会議室

3 出席者 [委員]

春日井委員長、大谷委員、小島委員、酒井委員、坂井委員、  
(欠席者：田村委員、中村委員)

4 議事次第

① 開会

港湾局理事挨拶

② 検討委員会について

委員紹介

設置要綱（別紙1）

委員長の選出

検討委員会の会議の公開等（別紙2）

検討委員会の進め方（別紙3）

③ 議題

これまでの野鳥公園検討の経緯について（別紙4）

整備にあたっての基本的な考え方について（別紙5）

整備にあたり必要な施設・規模・構造・機能等の検討について（別紙6）

④ その他

## 【配付資料】

別紙1 野鳥公園整備に関する検討委員会設置要綱（案）

別紙2 野鳥公園整備に関する検討委員会傍聴要領（案）

別紙3 野鳥公園整備に関する検討委員会の進め方

別紙4 これまでの野鳥公園検討の経緯について

別紙5 整備にあたっての基本的な考え方について

別紙6 整備にあたり必要な施設・規模・構造・機能等の検討について

参考資料1 アイランドシティ整備事業の進捗状況

## 第1回 野鳥公園整備検討委員会 議事要旨

	<p><b>開 会</b></p> <p>港湾局理事挨拶</p> <p>検討委員会について</p> <p>委員紹介</p> <p>設置要綱 (別紙1)</p> <p>委員長の選出</p> <p>検討委員会の会議の公開等 (別紙2)</p> <p>検討委員会の進め方 (別紙3)</p>
	<p><b>議事</b></p> <p>(1)これまでの野鳥公園検討の経緯について</p> <p>(2)整備にあたっての基本的な考え方について</p>
	<p>(別紙4, 5 事務局より説明)</p>
委員長	これまでの野鳥公園の経緯についてを別紙4で、整備にあたっての基本的な考え方についてを別紙5で事務局より説明があったが、ご意見・ご質問等よろしくお願いしたい。
委員	博多港長期構想との関係について確認したいのだが、エコパークゾーン全域を人と自然が共生する大規模な野鳥公園と捉え、とあるが今回の議論の対象との関係について説明を頂けないか。
事務局	野鳥公園基本構想においても野鳥公園はエコパークゾーンと一体的な整備が必要であるとされており、野鳥公園の中だけで機能をもたせ、完結させるものではなく、博多湾の東部地域全体を考えながら、これから整備していく野鳥公園にどのような機能をもたせていくかということを整理していくたいと考えている。
委員	範囲の広い野鳥公園と今回の狭い意味での野鳥公園の概念と二通りあると思うが、今回議論するのは狭義のほうで、影響圏については一体的に捉えていこうということか。
事務局	そのとおりである。

委員長	エコパークゾーンを生かした野鳥公園を計画したいということか。
事務局	そのとおりである。
委員	<p>これまでの経緯については概ね理解できたが、基本的な考え方についていくつか意見をさせて頂きたい。</p> <p>博多港長期構想で謳われている「新しい環境モデルの構築」について、これはなかなか難しい課題だと思うが、事務局としてはどのように考えているのか。</p>
事務局	博多港長期構想は、長期的な展望に立った提案であり、現時点での具体的なプランをお示しできる段階ではないが、今回の野鳥公園が、たとえば市民の皆さんと一緒に作り、運営していく、生物多様性について学習でき、その大切さを学ぶことができるなど、これまでにないような公園の整備ができないか、そういうものを含めて検討していきたい。
委員	環境保全をしようということで、全国では人工的な干潟を作るなどいろいろやられているとは思うが、これまでには税金で行っていた。海外では特に環境保全をしようとする場合、寄付金を募って作るということが最近かなり行われている。日本では聞いたことがないので、そういうものが可能なのか、役所が主導でやることはできないのか。もしできるのであれば、環境整備に寄付をして頂くという文化を根付かせていかないと予算の中でやるしかない、という制限になってしまうと思う。新しい環境モデルの構築として寄付を募るというのは制度的に可能だろうか。
委員長	九大でも講堂を全額寄付で作っている。何かシンボル的なものであれば寄付する人がいるかもしれないが、最初からそういう可能性を全て否定する必要はないと思う。
委員	<p>今回、機会あってフロリダの環境再生の事業を見てきたが、ボードウォーターブラック一枚一枚に寄付した人の銘板が付いていて、寄付した人の功績を讃えたり、またパビリオンにも名前が書いてあった。可能であれば新しい取り組みとして検討して頂きたい。</p> <p>3ページの整備の視点について、1、2に関しては何も異存はないが、3の情報発信・交流拠点について、情報発信というのが本当に必要なのか。む</p>

	しきういうものを作ることによって環境学習というものをして頂くのが一番だと思う。情報発信というのは市民が受け身になてしまふので、そうではなくて、市民のほうがもっと積極的に関わっていくということからすると、情報発信よりも環境学習のほうがよりよい印象を持った。
事務局	情報発信には、ここに来てもらうことでエコパークゾーンのすばらしさに触れるきっかけづくりの役割も持たせるということで挙げている。実際に、和白やエコパークゾーンに来て頂けたら、豊かな自然の良いところだとわかって頂けるので、野鳥公園に訪れることで背後のエコパークゾーンについて知ってもらうきっかけとなる情報を提供するような機能を考えている。表現については考えていきたい。
委員長	言葉の表現としてはこうなっているが、中身は環境学習を中心とした場を提供する。それによって情報発信しているのだということを意図しているということなのだろう。 福岡市は熱心にアマモを増やしており、小学生もずいぶん参加されているようなので、環境学習を通してこういった取り組みが広く一般の人にも知られれば、とても良いことだと思う。そういうことにこの場を提供しようということでおいか。
事務局	そのとおりである。
委員	民間企業が環境事業にお金を出すかという話に関して、企業のCSR活動について数年前に調べたが、民間企業は海系のものにはあまり支出していないようである。森を作るなどの事例が多く、目に見えない海辺環境への支出はあまりないのではないか。銘板に名前を入れるなどはいろいろなところで例があり、地方鉄道の枕木一本一本に名前入れる例もよくある。 企業にとっては、イメージアップに繋がるというインセンティブがないとCSR活動に繋がらない。海の中でということだと、例えばアマモ場をつくつてCO2削減にこれだけ寄与してます、というような位置づけにして、市がこの企業の活動も後押ししていくことで成り立っていくのではないか。 ラウンジカフェで利用者側からこういう風にしてもらいたいというのがあっての整備検討委員会だと思う。資料でラウンジカフェからのキーワードなどは記載されているが、具体的にラウンジカフェでの議論について教えてほしい。

事務局	<p>ラウンジカフェについては、市民の方が主体となって野鳥公園に関わって頂きたいという思いを持って、計画の当初の段階からどういう活動ができるのか、どういう野鳥公園が望まれるのか、そういうことについて対応しながら進めていきたいと思っている。資料別紙4のとおり、これまで6回ラウンジカフェを開催し、その中で出たキーワードを示している。自然環境のすばらしさや、エコパークゾーン全体を考えていくなどの話の中で、人が野鳥公園に育てられる、そしてまた人が野鳥公園を育てるなどの概念が出てきており、これを成長する野鳥公園として取りまとめていくという方向で考えている。完成された公園が提供されて利用されるというこれまでの考え方を少し変え、自然がどう形成されていくのか、といったプロセスを楽しみながら、その中で市民がどう関わっていけるのか、またCSRなど企業の参加も出てくるような仕組みを野鳥公園で作れれば新しい環境モデルというかたちになるのではないかなと思っている。</p> <p>市民の方も、すぐに全ての野鳥公園としての施設整備を求めているわけではなく、自然に任せながら、そして自分たちが利用しながら必要なものを順次整備していくというような考え方方が今のところの方向性としてまとまりつつあると考えている。その中で色々な考え方の市民がおられるとは思うが、市民がいかに主体となって野鳥公園に関わっていけるのかということを大事にしていきたいと考えている。</p>
委員長	<p>渚、海の潮間帯を中心とする環境というのは、もともと条件に応じてどんどん変化していく場なので、その環境の変化をどういかたちで市民との共働の中で捉えていくのか、また、どういう風に育てていくのか、というのは大きな課題だと思うし、それを場としてどういう段階でどういかたちで対応していくのか、というのも工学的には難しいことではあるが、今後の課題だと思う。</p> <p>また市民主体の、まさに共働という中で場の管理を含めて市民の方がどのように関わっていくのかについて、環境局も港湾局も検討しておいて頂きたい。</p> <p>CSRの話も可能性としては検討すべき話だと思う。</p>
事務局	<p>国土交通省が東京湾で民間に水域を解放している事例において、コンビニや食品企業に出資してもらう例もあるようなので、民間の資金を使って整備に繋げていくというのは十分あり得るのではないか。公共的な水域に民間資金を投入するのはなかなか難しい面もあるが、それをクリアできるようにな</p>

	れば、また一步道が広がるのではないかと思っている。
委員	民間企業がお金を出すということは、もちろん良いとは思うが、コンセプトとして市民と一緒にになって作り上げていくということで、市民にも少し寄付してもらった方が良いのではないか。市民に関わってもらうのが非常に重要だと思うし、関わるためにそいついたシステムづくりから必要なので検討して頂けたらと思う。
委員	九大のキャンパスでドングリをこどもに植えてもらおうという取り組みをNPO（グリーンヘルパーの会）が行っているが、そこでは企業がNPOに協賛金を出して頂いている。これは森の例だが、ひょっとしたら海の方でもどこかのNPOができるのではないかだろうか。
委員	以前、博多湾の森を作るということで、松を植えてそのままぼっくりが市民への配当ですという取り組みを行っており、できないことはないと思う。植樹した際の縁石に使う有田焼のタイルを一枚1000円で購入して自分の名前を入れるなどで、結構参加者も集まった。そういうのも良いのではないか。 別紙4の8ページのアイランドシティ事業計画の中の環境創造の取り組みで、グリーベルトの創出に取り組むということについて、世界に誇るようなグリーンベルトとまちになると思っている。漁業に携わる方が「森は海の恋人」と言って、森づくりを一所懸命やっている。きれいな水を森から海に流してきれいな海を作っていく、それがまた緑を増やしていくことに繋がっていくということで、現在、基金もできている。市民が自分で木を持ち寄って植えるような、「市民ゾーン」をつくってはいかがだろうか。
委員長	ほかに意見はないか。別紙5のゾーニング案は、大つかみのゾーニングが描かれているが、この中でご意見が頂けたら次に繋がると思っている。
委員	情報発信のゾーンについては、成長する野鳥公園ということで段階的に整備していくイメージを話されていたが、将来像がいまでもわからないといけないので、環境学習を含めて将来像を示すような情報発信の場が必要だろうと思う。 また、みんなが集まって共通の体験ができる場所というのが必要であり、それは市民が主体となって集まる広場、そいついたところがいるのではないか

	<p>か。</p> <p>計画の実施も議論しながら社会の変化に応じて少しづつ変わっていく時代なので、何年先にできあがるかわからないが、少しづつ時代時代で変わっていく考え方にも対応できるような場がいるのではないかと思う。</p>
委員長	<p>環境学習に来たこどもたちが、大きくなったときにちゃんと確認をする。それは市民参加ということからも非常に有効な手段ではないだろうか。是非ご検討頂きたい。</p>
委員	<p>情報発信・交流ゾーンについてだが、学習できる場を提供するというのが一番だと思う。いわゆる街の公園のようではなく、博多湾の原風景を再現できるような公園になってほしい。</p> <p>また、「野鳥公園」という名前についてだが、それで良いのかなということがある。エコパークゾーン全体を考えるとやはり干潟が重要である。干潟を潰してまで埋立地を作ったわけではなく、干潟を残したということが重要である。その意味を後世まで伝えるべきで、干潟の重要性がわかる公園になってほしい。そういうものが学習できる場が情報発信・交流ゾーンであり、野鳥公園よりもっと良い名前が何かあれば良いと思う。例えば「干潟自然公園」とか「干潟環境学習公園」、「干潟環境学習センター」など「干潟」というのをメインに出した方が良いのではないか。</p>
委員長	<p>今まで「野鳥公園」という名前がずっと使われてきているので、その名前を変えるということはなかなか大変かもしれないが、ご意見はごもっともだと思う。もちろん和白干潟に野鳥がたくさん来ているわけなので、それを見る場としての野鳥公園という意味はあると思うが、この空間の中で環境学習を中心として市民が親しめる場であるためにはどうすればいいのかという本質的な意見を頂いた。事務局はいかがか。</p>
事務局	<p>ご指摘のとおり、国内有数の渡り鳥の飛来地である和白干潟を残したこと、エコパークゾーン全体を大きな野鳥公園として捉えるということに意味があると考える。今回の整備検討はこの一定エリアのプランニングになるが、鳥類はエコパークゾーンを含む博多湾全体、さらにはもっと広い範囲を行き来しているので、地域特性を踏まえて、ここに必要とされるものについて、また、エコパークゾーンは鳥のほかにも多様な生きものがたくさん生息している場であるので、干潟を中心とするエコパークゾーンのすばらしさを皆さん</p>

	<p>に楽しみながら知りていただけるような場を考えていきたい。</p> <p>干潟を残し、環境を保全するとともに、環境の質を上げていく施策も行っている。海の水・底質の改善なども、公園の整備とともに今後も続けていくべきものと考えている。</p>
委員長	<p>ゾーニングについては、この漠然としたイメージ図でご意見を頂いておき、このセッションは終わりとしたい。</p> <p>ラウンジカフェの結論が最終までいっていないこともあるので、最後はその意見を踏まえて、最終的なゾーニングとして計画を固めるということで考えたい。それは第2回の委員会になるので、現時点ではこのゾーニングの方向性で検討を進め、ラウンジカフェの意見を踏まえて最後決めていくということでおよろしいか。</p>
一同	了承
	(3) 整備にあたり必要な施設・規模・構造等の検討について
委員長	<p>それでは別紙6の整備にあたっての施設、規模構造の検討について、事務局から説明をお願いする。</p> <p>(別紙6 事務局説明)</p>
委員長	<p>各機能について紹介があったが、これらの機能をすべて盛り込むものではないという説明もあり、これを踏まえ自由なご意見を頂きたい。</p> <p>その他検討を必要とする点として2点ほどあったので、これについてもご意見をよろしくお願いしたい。</p>
委員	<p>数年前に全国の野鳥公園を見に行ったときに、傷ついた野鳥が次々と運び込まれていた。そこが救急病院の役割を果たしていて、先生や看護師の方が治療する。野鳥はこんなにもアクシデントに巻き込まれてケガをするんだなと思い、これは必要と思ったが、ここに載っていないので留意すべき事項に入れてもらいたいと思う。</p>
委員	<p>野鳥がクローズアップされているが、一方でここでは藻場の話が出てきているように、この場所の環境における課題として、夏場に貧酸素水塊が出て、野鳥の餌となる貝が死滅するなどがある。そういう具体的な課題にも整備の</p>

	<p>中で少し解決の方向に取り組まれたほうが良いのではないかと思う。</p> <p>また、港湾行政で整備を行うものなので、「海に親しむ」という中で、海からの恩恵を理解するという環境学習や社会学習の場のようなかたちになってほしい。</p>
委員長	<p>かなり干潟の話もしていただき、アイランドシティというか博多湾全体で貧酸素水塊が夏場から秋に向かって深いところで出てくるわけだが、その解消のためには干潟を増やしていくのが長期的な視点では有効だろうと一般的には言われている。そういうものを野鳥公園の前面あたり、先ほどのゾーニングにもあったが、生物生息ゾーンで提供される場の一つとしてあるのではないかという意見だと思う。</p> <p>野鳥の入院施設ということだが、どの自治体、港湾管理者も野鳥公園の管理が大変厳しい状況である。先日、大阪の南港野鳥園に行ったが、存続の是非を問われており、非常に危機感を持たれていた。</p> <p>いかに税金を使わずに運営していくのかというのが重要になってきており、このような機能にはお金がかかるので、まず運営の方法から考えていかないといけないと思う。</p>
委員	<p>先ほど原風景という話があったが、原風景を守るためにには、ある程度人の入れない場所というのがやはり必要ではないか。どこでも歩いて回れると、荒らして回るので、入れない場所をゾーニングすべきではないか。ただ、公園であり、ある程度のにぎわいというキーワードも示されているので、人がどれだけ自然に親しんでいくのかというものとの調和をどうとるのかが課題だろう。</p> <p>また、夜、真っ暗だと犯罪や治安の心配があり、安全に歩ける場所がちゃんと確保されないといけないのかなと思うし、そのアイテムとして照明の明るさは、生態系との兼ね合いもあると思う。その辺をどうやって調整していくのかが気になるところである。ちなみに九大のキャンパスでは 150mおきにエマージェンシーポールという、ボタン押したらセンターにつながるようなものを設置している。</p>
事務局	予定地はアイランドシティ外周緑地の一部であり、夜間でも通行できる場所となるので、ご意見について考慮していく必要があると考える。
委員	1 の身近に生きものを感じる空間の創出と 2 の自然に親しむ空間の創出は

	<p>非常に似たようなものだが、自然に親しむ空間をどの程度にするのかがとても重要ではないかと思う。</p> <p>散歩は良いとして、ランニングは中央公園でやってもらう。人間がつくった疑似自然を体験してもらうのは良いが、どの程度体験できる施設を整備するのか、その辺の兼ね合いが非常に難しい。やはり人が通れる範囲というのをある程度制限しないといけないのではないか。そうしないと、生きものが生きられる環境あるいは空間というものを作れないのではないかと思うので、その辺を慎重に検討して頂く必要があると思う。</p> <p>その他検討が必要な事項に、にぎわいのある施設の工夫ということだが、福岡市内だけではなく、近隣の小学校の 5 年生以上の環境学習の場にすればどうか。年中小学生が来るし、子どもが来れば土曜、日曜は親を連れて来てくれると思う。</p>
事務局	エコパークゾーンの自然環境を学ぶ機能は、とても重要でありしっかり考えていきたい。
委員長	基本的にいろいろな機能があって、限られた空間の中でやるとなると、非常に悩ましいところではあると思うが、ラウンジカフェの意見を踏まえた第 2 回委員会のときには、方向性についてある程度示した上で案を示していないとまとめられない。限られた時間になるとは思うが、2 回目までには具体的にそこまで示して頂くということでおろしくお願ひしたい。
委員	先ほどエコパークゾーンの一つの課題として、夏の貧酸素水塊ができるということで、それを含めて何か対応ができないかという話があった。基本的な考え方に関わってくるとは思うが、生きものの生息ゾーンに、浅場なり、擬似的な干潟をつくったりということが考えられ、そのときに陸上部との連携・関わりをどうするかということがある。護岸の前面に浅場なり干潟らしきものをつくる生物生息ゾーンをつくるというゾーニングがなされていると思うが、そのときに護岸の陸側のところとのつながりをどうするか。その手法として、護岸に穴を設けて水の行き来をさせるというのがあげられるが、そういうことが可能なのかどうか。その辺はこの公園の特に親水ゾーン、生物生息ゾーンを整備する上で重要な点だとは思う。
委員	すでに外周護岸ができていて、どこまで工夫できるのかにかかってくる。今からこれを壊して中へ水を入れるという話ではなく、少しこの中で工夫を

	行うということではないか。大胆にここを作り直すということではなく、現実的なところでどう折り合いをつけながらやっていくか、そういう工夫、知恵を出し合っていく。そんな感じではないかと思う。
委員長	事務局から補足があれば。
事務局	どういった役割を求めていくかということに関わってくるが、実際に大規模なことを行おうとすると相応のコストもかかる。取りうる手段の中でどこまでの機能を求めて、実現可能なものとするのか、総合的に考えていく必要がある。
委員長	資料にもあるが、アイランドシティは親水護岸というかたちで石を入れてあるが、野鳥公園予定地については直立護岸にしてある。これには意図があり、あとで使いやすいようにということだったのかなと理解している。予算の問題もあるので、そこをうまく活かして、やるべきことを検討してほしい。
委員	別紙 6 の 4 ページの検討が必要な事項のにぎわいのある施設をつくるための工夫だが、いろいろご意見を聞いていると、にぎわいのある施設にしない方がいいようなニュアンスにも聞こえる。そのあたりはどのように考えるのか。
事務局	施設の中での機能分担を行っていくべきものであり、施設全体としてはより多くの人に来ていただきたい。
委員	矛盾してるところがあるような気もするが。
委員	それについては、別紙 6 の 1 ページに葛西臨海海浜公園の干潟の写真があるが、片方の干潟は人を入れない干潟になっており、片方は潮干狩りができる工夫をしている。人が入っても良い、にぎわいをもたせる場所と人が入れない場所とにゾーニングしている。エコパークゾーン全体を見たときに、人の手が触れない、あえて残すところのコンセプトを分けていくことが必要である。人がにぎわってくれる方が良いとは思うが、その場所をどう限定していくか、自然を優先させていく場所をどうするか色分けしていくことが大事だと考える。

委員	にぎわいのある施設にしたいし、みんなが行けるところにしたいと思っているのだが。
委員長	もちろん都市の中にある公園であり、海浜の公園なので、その学習機能はある程度入れながら、自然の環境学習ができる場としてバランスを考えてやって頂くしかないと思う。決して完全なサンクチュアリにするわけではなくて、背後の土地、アイランドシティの価値が高まる、さらに福岡市の価値が高まるような場にしていくためにも是非そういった意見を頂きたい。
事務局	<p>今日、ご欠席の委員から事前にご意見を頂いているので、紹介させて頂く。まず</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・野鳥公園に整備する機能については、エコパークゾーン全体を考慮し、盛り込みすぎることなく、絞り込むことが必要であると考える。</li> <li>・雨水が入り込むような池があると、生物多様性に関する環境学習などに大いに活用できると考える。</li> <li>・現在、野鳥公園予定地の法面に樹木等が自生しており、これらの植物はこの地に適性があることから、今後の公園造りに活用、あるいは参考になると考えられる。</li> <li>・野鳥の休息場を整備する場合、シギ・チドリ類など敏感な野鳥は、利用する人との距離に配慮し、人の導線を考慮したり、人が見えないようにする工夫などが必要となる。</li> </ul> <p>次に、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的な施設の規模や構造の検討にあたっては、生物の生息環境の創出において、例えば鳥の餌場にするか、休息場にするかによって、また、ターゲットとなる鳥の種によっても造成の仕方や施工方法も異なってくるので、和白干潟との関係を十分考慮しながら決めていく必要がある。</li> <li>・敷地内を掘り込むような構造にする場合、発生する掘削土砂について処分方法などを含めて考慮しておく必要がある。</li> </ul>
委員	最後の意見に関わるが、資料6の2ページの右に、公園内に起伏をもたせ、公園内を見晴らせる丘「築山」とあり、これはとても良いと思う。工事で出土で、築山を作り、少し上から見下ろせるような場所があると良いのではないか。
委員長	現在、現地には、10mくらい載荷盛土があり、削ればすぐに築山ができる

	<p>状態である。それをどう活かすか、是非ご検討いただきたい。</p> <p>その他、意見がなければ、今日頂いた意見をもとに、最終的なラウンジカフェの意見を踏まえて、事務局の方で検討して頂きたい。</p>
委員	<p>最後に、私が NPO や環境学習を行っている団体の方との話を紹介したい。「なぜこのような活動をやっているのですか」と尋ねたときに、山で保全活動をしている人たちは「オオタカを守るため」などの目標をもって行っていた。</p> <p>海で保全活動をしている方に何が目標ですかと尋ねたら、ある人が「子どもの笑顔が増えることです。」と言っていた。今回の整備計画やモニタリング計画等を立てていくにあたっては、その目標の一つに明るく楽しく子供や市民の笑顔が増えるというような項目を入れてはいかがか。</p>
	閉会